



金山中吹奏楽部が壮行演奏会 東北大会をめざし表情豊かに演奏

全日本吹奏楽コンクール第56回山形県大会での健闘を後押しするため、役場町民ホールで金山中吹奏楽部の壮行演奏会を行いました。曲目は「鬼姫-ある美しき幻影-」。多彩な音色で感情を表現する表情豊かな演奏に、来場者は引き込まれるように聴き入っていました。県大会では金山中として初の金賞を獲得。惜しくも東北大会の出場は逃しましたが、次につながる演奏となりました。

訪問看護ステーション開所 最上北部における在宅療養の核として

8月1日から「訪問看護ステーション新庄サテライト まむろ川」のサービス提供が開始しました。町立真室川病院内に設置され、(公社)山形県看護協会・真室川町・金山町・鮭川村が協力して運営していきます。今後、在宅療養の核を担うこのサービス。開所式では鈴木町長をはじめとする関係者の拍手と、今後への期待に包まれながら、記念すべき第1号の訪問車が出発しました。



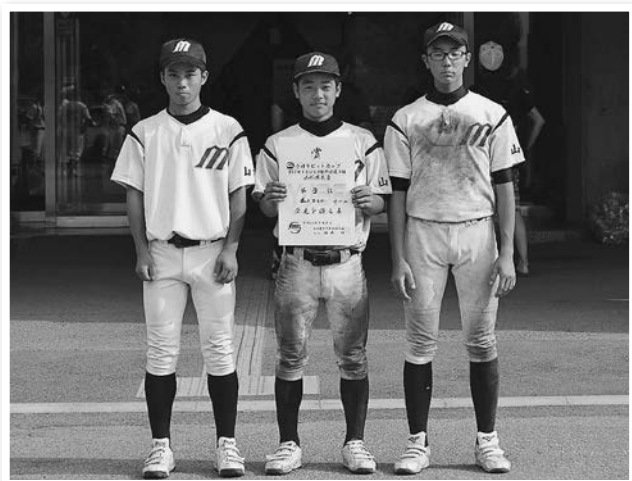
まちの わだい

身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)

「金山町いろはかるた」完成 かるたで町を学び、町に愛着を

平成28年度に金山小学校6年生児童の皆さんと、前教育長である樋口勝也氏が協力して作成した「金山町いろはかるた」を町青少年育成町民会議学校部会が完成させました。このかるたには、金山町の歴史や文化、産業から自然のことまで、絵・文ともにまとめられています。かるたという昔ながらの遊びを通し、町を学び、町への愛着をさらに深めることのできるものとなっています。

森図書(交流サロンぽすと内)に来ている子ども達は「かるたをしながら、勉強もできて楽しい」と話し、時折お手付きをしながら、町への理解を深めていました。かるたは各地区公民館や子育て支援センターに配置されています。皆さん、ぜひご活用ください。



金山中野球部の3選手が選抜 最上地区選抜チームが東北大会出場

7月8～9日に開催されたU-15全日本KWB野球選手権山形県予選を勝ち抜き、最上地区選抜チームとして出場した、金山中3年の(写真右から)柿崎光希くん、梁瀬和麻くん、高橋大樹くんが見事3位入賞を果たしました。7月29日から岩手県八幡平市で開催された東北大会にもおいても3人は主力選手として出場しました。今後のますますの活躍を期待します。

みすぎ荘納涼会で夏を涼しく 歌や踊りを通してみんな元気に

7月17日、特別養護老人ホームみすぎ荘で納涼会が開催されました。職員の方々は、1ヵ月以上練習したというソーラン節を披露。「気合いの入った踊りを見て、元気になってほしい」と利用者の皆さんへエールを送っていました。この日は、施設全体が会場となり、各所に喫茶コーナーや水ヨーヨー釣りなどを設置。利用者やその家族の皆さんは、涼みながら夏を楽しんでいました。



子どもを産み育てることの尊さを 乳幼児と生徒のふれあい教室

「適時適育事業」の一環として、新庄南高校金山校の2年生と地域の乳幼児たちとのふれあい教室が開催されました。子育て支援センターおひさまを会場に10組を越える親子が参加。恐る恐る子どもを抱っこする生徒たちからは「小さくて可愛い!」などと声があがっていました。これから親になる皆さんにとって、子どもを産み育てることの尊さを学ぶ良い機会となったでしょう。

町立金山診療所でホスピタルライブ 入院患者さんも爽やかな歌声を楽しむ

年間300か所以上の病院や福祉施設などでライブコンサートを行っているシンガーソングライター松尾貴臣さんの「ホスピタルライブ」が、7月26日に町立金山診療所で開催。松尾さんの爽やかな歌声とともに、入院患者さんを含め約70人の皆さんの手拍子や掛け声が響きわたりました。この日はみすぎ荘でもライブを行い、利用者の皆さんに温かい歌をプレゼントしてくれました。



平成29年度金山町成人式 今年は73名が新たな道を――

8月14日、町改善センターで平成29年度金山町成人式典が行われました。今回対象となる成人者は、男性46名、女性27名の計73名。そのうち式典には56名が出席しました。久しぶりの旧友との再会に抱き合っただけ、笑顔で近況を報告したり、時には当時の青臭い思い出を話したり。会場は懐かしさに高揚しつつも、大人の門出に少しキリリとした、そんな成人式特有の雰囲気包まれていました。

式典では、新成人の恩師である小川浩道先生が激励のことばを述べられました。「顔を見ただけで、体育祭や合唱祭での皆さんの頑張りを思い出す。社会に出れば大変なこともあるが、『全員が主体的に、仲間と協力し合い、高い目標に向かって頑張った』当時のことを思い出せば乗り越えることができるはず」と思い出を交え、エールを送ると、涙ぐむ新成人の姿も。続けて、新成人を代表して成人式実行委員長長の丹将也さん（下野明）が、エールに応えるように「家族や恩師、地域の皆さんに感謝したい。これからは自分の生き方に誇りと責任を持つ」と決意の言葉を述べました。



二十歳の提言では町政策顧問である皆川芳嗣先生が、『二十歳になってできる地域貢献』と題し講演。冒頭には「皆さんが生まれた平成9年はいわゆる『失われた20年』の真っ只中。景気が悪かった時代」と新成人が育った境遇を説明されていました。続けて皆川先生は「日本の人口は2008年をピークに減少している。金山町も例外ではない」と問題提起したうえで「皆さんのような若者に、積極的にチャレンジしてほしいと思う。金山町ならではの仕事を創出することも可能だ」と新成人にアドバイスされていました。

今はそれぞれの場所で頑張っている皆さん。でもこうやってひとたび集まれば、離れていた時間を埋めるように語りあい、笑いあえる仲間がいることを忘れないでください。

「これからも金山を愛し続ける」これは新成人代表の丹さんの言葉です。新成人の皆さんにとって、本式典の開催が、今まで以上に故郷金山町のことを考えるキッカケとなったのではないのでしょうか。皆さんの未来と金山町が少しでも結びつきますように。



金山町育英会奨学生懇談会 町政策顧問の岸宏一先生が講演

8月16日、金山町育英会の奨学生35名が出席し、近況報告などを含めた懇談会が開かれました。会では、前参議院議員であり町政策顧問の岸宏一先生が講演。「金山の子は安定志向が多い。ぜひ競争心を持って、色々なことに挑戦してほしい。家族や金山を愛する気持ちを忘れずに、いずれは故郷で活躍してくれることを願う」と奨学生の皆さんにエールを送っていました。



柿崎ケサエさんが100歳 町から賀詞・お祝い金を贈呈

柿崎ケサエさん（みすぎ荘：上中田）が、8月13日に100歳を迎えられ、鈴木町長からご本人へ、賀詞やお祝い金等が贈られました。ケサエさんは、大正6年8月13日生まれ。みすぎ荘での贈呈の際には、ご家族の方も大勢来られ、100歳の誕生日を皆さんでお祝いしていました。これからも健康で元気に長生きしてくださることを願っています。おめでとうございます。

夏の恒例「金山祭り柔道大会」 20年以上続く歴史に幕

8月16日、金山祭り柔道大会が、新庄南高校金山校を会場に開催されました。園児の部から中学生の部まで、個人戦に約100名がエントリー。男女交えた熱戦が繰り広げられました。夏の恒例となっているこの大会も、スポーツ少年団員の減少にともない今年が最後。「20年以上の歴史が途絶えてしまうのは残念。団員を増やして、またいつか復活させたい」と関係者は話していました。



みんなで繋いだ40周年 昭和34年金山中卒「東京楯山会」

昭和34年に金山中学校を卒業した方のうち、関東近郊に在住するメンバーで結成した同級会である「東京楯山会」の40周年記念祝賀会が開催されました。「故郷の仲間との絆で、波乱万丈を切り抜けることができた」と感慨深げに話す小野甚吉さん（稲沢出身）などメンバーは今年で74歳。青春時代を共にした同級生との思い出は、月日を重ねてなお、輝きを増すものです。

